

日本で現代ロシア絵画常設展示の美術館を創ったことの意義

以下は、私が代表を務める当美術館で館長をお願いしている私の兄(石井徳男)が、(兄の住む新川の実家に私たち夫婦と彼の二世帯住宅を建てて一階に美術館を創る件に関連して)時折々に私に話したロシア絵画の体験談を、私が詳細を省いて、解り易く簡単にまとめたものです。

当美術館が兄から譲り受けた現代ロシア絵画は、230点です。それは、最初のモスクワ駐在4年間の2年目1990年3月から2回目5年間のモスクワ駐在が終了する2003年6月までの約13年間にわたり、自らの感性に従って「力を感じる絵を」という基準で蒐集したコレクションです。

その230点を制作した画家は全部で84名に及びますが、その何れもが現代ロシア画壇の高い芸術レベルを代表すると言える基準、「ロシア芸術家プロ同盟」のランキング評価「4」以上を、クリアした画家というのが兄の確信です。それについて著書『現代ロシア絵画考』の中で「凄いと感じさせるに足りる高い芸術レベル」と述べています。「ロシア芸術家プロ同盟」の詳細は、『現代ロシア絵画考』のP. 145 または、同改訂版を無料公開している兄のホームページ、URL: <http://www.ishii-gallery.com>、P. 96 を参照ください。

兄は、その確信があったからこそ、ロシアの隣国日本において現代ロシア絵画の常設美術館を創ることに長年拘り続けていました。私は何度か「本場ロシアの高い芸術レベルの作品を常設展示する美術館を日本に創れば、我が国にとっても画期的な社会貢献になる」とか、「ロシアにとってそれは願ったり・叶ったりのことで、それによりロシアを理解する日本人が増えて、平和のための相互理解になる」といった、大言壮語と思えるような話を聞かされています。

ところが、今から数か月前になって、兄の確信がより客観的な形で明らかになりました。当美術館のコレクション84名の画家の大部分が、「ロシア芸術家プロ同盟」に入会して、高いランキング評価を得ていたことが判ったからです。

「ロシア芸術家プロ同盟」から取りつけた、その84名についての最新のランキング評価は、「3」1名、「4」69名、「5」4名、「当該同盟に未加入な画家」10名です。ついでながら、「5」の4名、「未加入者」10名についても、兄は、「4」の基準で選んだもので、少なくともその選んだ作品は「4」のレベルにあると言っています。

兄の説明によれば(私に手渡したものをそのまま書き写します)、

- ◎ランキングに関して「ロシア芸術家プロ同盟」は、「5」以上を職業画家と見做し、一度「5」以上と査定された画家は、改めてランキング審査を受けることなく、3か月毎に行われる評価更新に際しての3か月前のマーケットの取引実績に依って、上位のランキングへの移行や、上位であった画家はランキングを下げる場合もあるとしている(例えば、前回までに84名の画家に評価「3」が5名いたが、今回その中の4名は「4」に移動)。
- ◎2003年6月に「(旧ソ連の画家を含む)ロシア国内ランキング」の「3」以上の画家に、芸

術評価の高い、18世紀から現在までの西欧等の外国人画家を加えて(その活躍期間はロシアの画家の活躍期間の基準に合わせて画家を選択)「国際画家ランキング」を設定している。「ロシア国内ランキング」の画家数は毎年増え続け、昨年8月の時点で52,956名の加盟者となっているが、「国際画家ランキング」の方は、10,067名(そのうち外国人画家は1,650名)と全体の画家数は毎年同じように推移し、ほとんど変わっていない(但し、全体数はそんなに変化のない中で、外国人画家数は減って、ロシア人画家が増える傾向)。

◎「ロシア国内ランキング」評価につき、「1」は存命中の画家には付与されず、「2」～「4」は50歳未満、及び「5」は35歳未満には付与されない等、年齢制限を設けているのも特徴的である(写実主義絵画は、それだけ長い修練期間を要することを示していよう)。

最後に、表題の「美術館を創ったことの意義」を簡単にまとめておく：

◎ロシア革命直後から芸術レベルの高い美術品は、国民の財産として国外への持ち出しが禁じられていたため、ペレストロイカの始まる少し前(80年代初期)まで、約100名の優れた画家の作品は常時国外持ち出し禁止であった。絵画芸術は原画を観ないと、その真価が解らない。そのためロシア伝統写実主義絵画芸術が大変高いレベルにあるのは、西側自由諸国に認知されることはかつてなかった訳で、これが現代ロシア画壇の悩ましい、大きなジレンマになっている。ところが私の最初の駐在時は、芸術レベルの高い絵を持ち出すことのできた初めての時期で、その僅か数年の間に200点に余る優れた作品を蒐集できたのは、私にまつわる幾つかの要素が偶然重なったからで、正にそれはペレストロイカのお蔭であった。その84名の作品は、「ロシア芸術家プロ同盟」の査定によって、今では高い芸術レベルのコレクションであることが確認されている。それ故、西側諸国の一員で、しかもロシアの隣国日本に於いてその作品群を常設展示している当美術館の普及活動は、私設の小さな美術館ではあるが、ロシアの「悩ましき、大きなジレンマ」を打破するものと断言して良いのではないか。永い間の夢を叶えて、初めて日本で創った当美術館の意義を私はそのように考えている。

小さな美術館は、何かに特化した絵を見せて、美術館の特長を出すのが大事と思います。繰り返しになりますが、当館は現代ロシア画壇を代表している作品を常時約30点展示しています。その「ロシア芸術家プロ同盟」のランキング評価「4」以上の作品を39帖の展示スペースの中で絵が映えて見えるように配置し、自信を持って作品をご紹介しますので、その点をご安心頂けます。其々の絵に個性があつて、そのどれもがお勧めです。

それはそれとしまして、今は大変な時です。新型コロナウイルスが収束に向かいましたら、見応えのある現代ロシア絵画を鑑賞され、楽しむことによって、家に待機して溜まったコロナ疲れのストレスを癒して頂き度。ご来館を心よりお誘い申し上げる次第です。

令和2年4月17日

ストーンウエルアートギャラリー代表 見川千恵子